

11月4日(木)

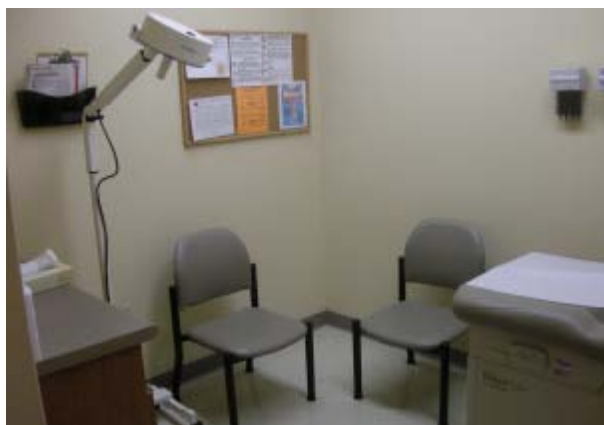
Hawaii Island Family Health Center

報告：若山 隆 (Cグループ)

---

家庭医の診療体験をしたことを書きます。

まず、Hawaii Island Family Health Centerの説明ですが、医師不足に悩むHilo地区の住民、政府、州が協力して2009年10月に開院されたクリニックです。通常診療はもちろん、John A. Burns School of Medicine (JABSOM)の家庭医療レジデント、ハワイ大学の看護部、薬学部などからもスタッフが派遣され、教育機関としても重要な役割をもっています。家庭医療レジデンシー後、7割の医師がその地区に残って働くというデータがあり、医師不足対策の期待も持たれているようです。そこでは2人の家庭医、週に2日診療をする産婦人科医、1人のNurse Practitionerが働いていました。その他にNurseが数人、事務系スタッフです。診察室は診察台が1つ、机、椅子、耳鏡、眼底鏡その他診察道具が備え付けになっていました(左写真)。診察室に患者が呼ばれ



ると、診療が完結するまではそこは患者の部屋として自由に使えます。検査などの待ち時間も診察室で待つため、雑誌などもおいてあります。その間、医師は別の部屋でカルテを書いたりします。初診では1人あたり30~45分、再診でも15~30分ぐらいかけていました。

今回は5人の患者の診察を見学させていただきました。そのうち、特に印象に残った症例について書かせていただきます。79歳の女性で、TIAの既往、骨粗鬆症、高血圧、尿路結石の既往(複数回)の方でした。このクリニックに通い始めて間もないようで、今後の治療方針について相談しているところでした。議題の1つ目が、バイアスピリンの内服についてでした。TIAの既往があり、一度はバイアスピリンを内服していたのですが、嘔気などの消化器症状で自己中断していました。内服することのメリット(脳梗塞が予防できること)と、リスク(胃潰瘍、易出血性)、値段などについて詳しく説明し、患者の選択を促している姿が印象的でした。結局は次回までにどうするか決めてもらうことになりました。議題の2つ目が、リビングウィルについてでした。脳梗塞の危険性を説明する過程で、重症の脳梗塞について話をしたあとの流れでした。患者さんの母親も脳梗塞で重度の後遺症(ほぼ植物状態)を負って、その姿をみて

いた背景もあってか、話はスムーズに進んだ印象でした。アメリカでは POLST (Physician Orders for Life-Sustaining Treatment) という、緊急時の医療行為についての法的権限をもった書類作成の動きが進んでいるとのこと。段階的にチェック項目があり、DNR か、医療行為はすべて行う、限定的に行う (挿管、集中治療は希望しないが、必要に応じて転送や抗生剤、点滴などを行う)、苦痛をとる対症療法のみ行う、経口摂取不能時の対応 (鼻腔栄養など) 等細かくチェックリストがありました。(詳細 <http://www.ohsu.edu/polst/>) 議題の3つ目が、骨粗鬆症についての内服薬としてカルシウムの内服についての話でした。頻回の尿路結石の記憶があり、尿路結石のリスク増加にならないかを気にしており、UP TO DATE で得られた情報 (低用量カルシウムは尿路結石のリスクにならない) を説明していました。

感じたこととしては、まず診療時間が長いことです。そして患者への説明がとても詳しくなされていました。アメリカの文化的な影響 (契約社会、医療訴訟が多い) なども影響しているとは思いますが、治療方針の最終決定は患者が下すのです。医療先進国の多くはこのくらいの診察時間が一般的のようです。アメリカのクリニックでは採血検査、レントゲンができません (すべて外部委託で時間がかかります)。必然的に問診、身体所見を時間をかけて行うことになります。

また、全体的な感想としてアメリカの医療制度の特殊性が日常の診療に影響していると思いました。アメリカは先進諸国の中で唯一、全国民を対象とした公的医療保障のない国です。65 歳以上の高齢者・障害者 (メディケア) と貧困者 (メディケイド) のみ公的医療保障があり、全国民の 1/4 ほどしかカバーされていません。57.9% が民間保険会社に加入しています (OECD ヘルスデータ 2009)。医師は患者の投薬についても、それぞれの保険で治療費が認められるかどうか注意して診療しているようでした。

その他、見学時、薬学部 2 年目の学生が実習にきており、医師の教育風景をみれたり、Nurse Practitioner の診療なども学ぶ機会があったりしました。ある程度経験をつんだ Nurse Practitioner は制限付きですが処方もできるようでした。

たくさん学びすぎて書ききれませんが、アメリカの家庭医療にどっぷり浸かった一日でした。英語の聞き取りに苦労しましたが、得られたものは大きかったです。

